

運用報告書（全体版）

日本金融ハイブリッド証券オープン （年1回決算型）

円ヘッジありコース/
円ヘッジなしコース

〈愛称〉ジェイブリッド年1

第3期（決算日 2019年6月14日）

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（ハイブリッド証券）	
信託期間	2016年6月30日から2021年6月11日まで	
運用方針	<p>①日本の金融機関グループ（銀行本体、保険会社およびそれぞれの子会社、関連会社等を含みます。）が発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券（期限付劣後債、永久劣後債、優先出資証券等をいいます。）を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目指します。</p> <p>②「円ヘッジありコース」と「円ヘッジなしコース」があります。</p>	
主要投資対象	日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジありコース	日本金融ハイブリッド証券マザーファンド受益証券
	日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジなしコース	
主な組入制限	日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券
	日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジありコース	株式への実質投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジなしコース	
	日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。</p>	

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「日本金融ハイブリッド証券オープン（年1回決算型）円ヘッジありコース／円ヘッジなしコース」は、このたび第3期の決算を行いましたので、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル



<https://www.sjnk-am.co.jp/>

お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

円ヘッジありコース

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 騰 落 中 率			
(設定日)	円		円		%	%	百万円
2016年6月30日	10,000		—		—	—	471
1期(2017年6月14日)	10,079		0		0.8	94.7	2,245
2期(2018年6月14日)	9,729		0		△3.5	97.8	1,271
3期(2019年6月14日)	10,330		0		6.2	97.6	1,027

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万円当たり（以下同じ）。

(注3) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率
		騰 落	率		
(期 首)	円		%		%
2018年6月14日	9,729		—		97.8
6月末	9,712		△0.2		97.7
7月末	9,715		△0.1		94.7
8月末	9,765		0.4		96.6
9月末	9,739		0.1		96.6
10月末	9,617		△1.2		97.3
11月末	9,640		△0.9		96.3
12月末	9,605		△1.3		94.9
2019年1月末	9,846		1.2		95.4
2月末	9,888		1.6		96.9
3月末	10,059		3.4		97.3
4月末	10,088		3.7		97.6
5月末	10,223		5.1		96.1
(期 末)					
2019年6月14日	10,330		6.2		97.6

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

円ヘッジなしコース

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 期 騰 落 中 率			
(設定日)	円		円		%	%	百万円
2016年6月30日	10,000		—		—	—	73
1期(2017年6月14日)	10,970		0		9.7	96.7	222
2期(2018年6月14日)	10,844		0		△1.1	97.0	133
3期(2019年6月14日)	11,636		0		7.3	97.0	279

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万円当たり（以下同じ）。

(注3) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注4) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに合った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率
		騰 落	率		
(期 首)	円		%		%
2018年6月14日	10,844		—		97.0
6月末	10,854		0.1		96.9
7月末	10,922		0.7		95.4
8月末	11,006		1.5		96.3
9月末	11,229		3.6		95.3
10月末	11,091		2.3		97.5
11月末	11,163		2.9		96.6
12月末	10,923		0.7		95.9
2019年1月末	11,040		1.8		96.8
2月末	11,305		4.3		97.0
3月末	11,535		6.4		97.4
4月末	11,660		7.5		97.1
5月末	11,599		7.0		98.1
(期 末)					
2019年6月14日	11,636		7.3		97.0

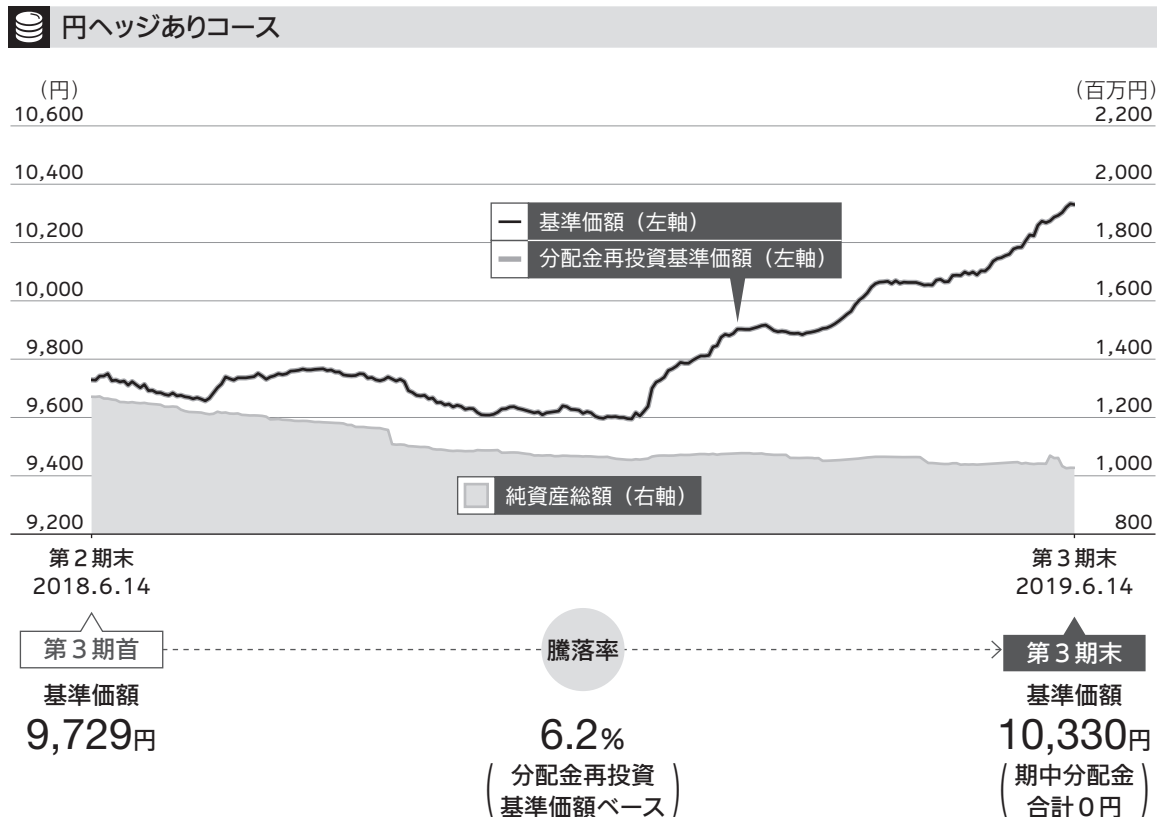
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 債券組入比率はマザーファンドへの投資割合に応じて算出された当ファンドベースの組入比率。

(注3) 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに合った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

運用経過

● 基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額の推移は、2018年6月14日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

円ヘッジありコース

高位に組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。なお、当ファンドは為替ヘッジを行っているため為替変動による影響は限定的でしたが、ヘッジコストが基準価額上昇の抑制要因となりました。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

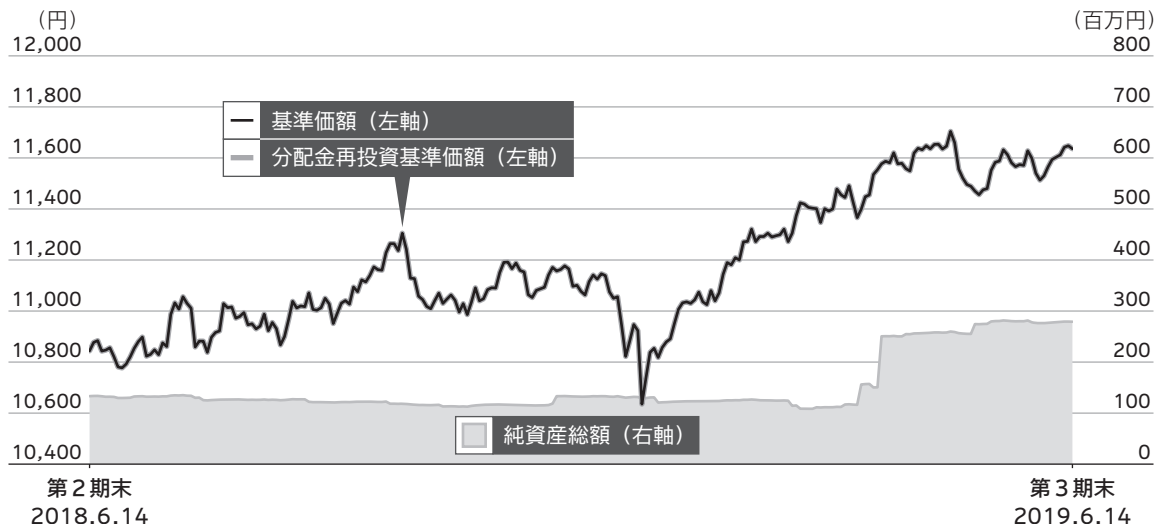
期中の騰落率は+8.3%となりました。保有する日本金融ハイブリッド証券について、対国債スプレッドは小幅拡大しましたが、基準となる米国債利回りが大きく低下したことにより、利回りは低下（価格は上昇）しました。インカム収益と合わせて、所有期間利回りは大きくプラスとなりました。なお、為替は円高に推移したことから、基準価額上昇の抑制要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 基準価額の推移

円ヘッジなしコース



第3期首
基準価額
10,844円

騰落率
7.3%
(分配金再投資)
(基準価額ベース)

第3期末
基準価額
11,636円
(期中分配金)
(合計0円)

- 分配金再投資基準価額の推移は、2018年6月14日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

円ヘッジなしコース

高位に組入れていたマザーファンドの基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

期中の騰落率は+8.3%となりました。保有する日本金融ハイブリッド証券について、対国債スプレッドは小幅拡大しましたが、基準となる米国債利回りが大きく低下したことにより、利回りは低下（価格は上昇）しました。インカム収益と合わせて、所有期間利回りは大きくプラスとなりました。なお、為替は円高に推移したことから、基準価額上昇の抑制要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。

 ベビーファンド  マザーファンド

● 投資環境

○米国債券市場

米国債券利回りは低下（価格は上昇）しました。

2018年秋頃までは、堅調な経済指標や原油価格の上昇を背景とした期待インフレ率の高まりから利回りは上昇しました。10月に入り世界主要株価の急落・ボラティリティの上昇を受けて市場のリスク回避姿勢が高まると利回りは低下に転じ、その後はFRB（米連邦準備理事会）当局者の発言や原油価格の下落を受けた利上げ観測の後退等も背景に、2019年初にかけて米国債利回りは大きく低下しました。利回りは1月上旬にそれまでの反動でやや上昇したあとは、世界経済の成長減速懸念から小幅低下傾向で推移し、さらに3月下旬にFOMC（米連邦公開市場委員会）で利上げ停止の見通しとバランスシート縮小政策終了の方針が示されると利下げ観測が台頭し始め、利回りは一段と低下しました。4月には主要国の底堅い経済指標等を背景に、利回りは上昇しましたが、5月初めの米中通商問題の激化をきっかけに反転し、原油価格の下落による期待インフレ率の低下等も背景に利下げ観測が強まるなか、利回りは期末まで大きく低下しました。

○欧州債券市場

ドイツ債券利回りは低下（価格は上昇）しました。

2018年9月にはECB（欧州中央銀行）のドラギ総裁の発言等を背景に、利回りは上昇する局面もありましたが、10月以降は、世界的な株価下落に加えイタリアの財政問題、英国のEU（欧州連合）離脱を巡る不透明感、米中通商問題の激化等を背景とした市場のリスク回避姿勢の高まりから利回りは低下しました。

○英国債券市場

英国債券利回りは小幅低下（価格は上昇）しました。

利回りは上昇傾向で推移したのち、秋以降は欧米債券利回りの動きに加え、EU離脱交渉を巡る不透明感が意識され低下方向での推移となりました。

○日本金融ハイブリッド証券市場

日本金融ハイブリッド証券市場は、基準となる米国債ほど利回りが低下しなかったことから、対国債スプレッドは小幅拡大しました。

○為替市場

ドル円はドル安円高となりました。

2018年秋までは、米国債利回りの上昇等を背景にドル高円安方向で推移しました。10月に世界主要株価が急落し市場のリスク回避姿勢が高まると、ドル円もボラティルな値動きとなり、12月に一段の株安となった局面で、大幅にドル安円高に動きました。2019年1月上旬以降はドル高円安方向に戻す動きとなりましたが、5月に入り米中通商問題の激化をきっかけに市場のリスク回避姿勢が再び高まると反転、市場はドル売り円買いに動き、期末のドル円は期初よりドル安円高の水準となりました。

為替レートの推移



注. 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

● 当該投資信託のポートフォリオ

☎ 円ヘッジありコース／円ヘッジなしコース

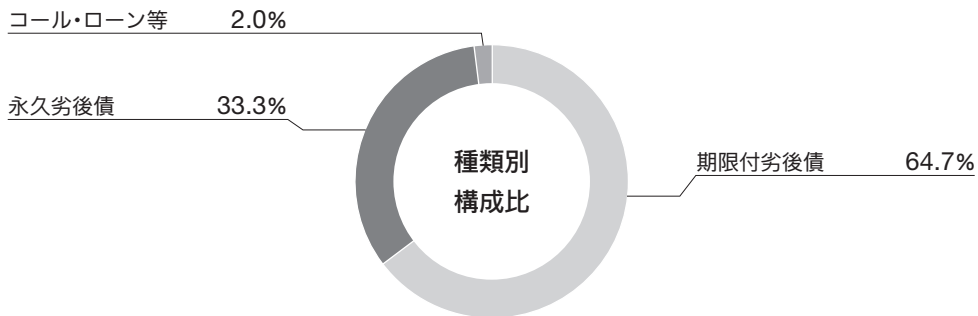
両コースとも、期を通して日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの組入比率を高位に維持しました。円ヘッジありコースでは、為替変動リスクを回避する目的から、為替のフルヘッジを行っています。

期末の組入比率（対純資産総額比）は、円ヘッジありコースが99.6%、円ヘッジなしコースが99.0%です。

👤 日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

決算日時点のポートフォリオは8銘柄で構成されています。投資している証券はすべて外貨建てとなっています。

第3期末時点のポートフォリオ構成は円グラフの通りです。



注1. 比率は、第3期末における純資産に対する割合。

注2. 端数処理の関係上、構成比合計が100%とならない場合があります。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

円ヘッジありコース／円ヘッジなしコース

各ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 分配金

中長期的な観点から、複利効果による資産の成長を目指すために分配を抑えるファンドです。

円ヘッジありコース

収益分配金については、基準価額水準等を勘案し、分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第3期
	2018.6.15~2019.6.14
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,045

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

円ヘッジなしコース

収益分配金については、基準価額水準等を勘案し、分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳 (単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第3期 2018.6.15~2019.6.14
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,636

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

● 今後の運用方針

円ヘッジありコース

今後も、日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの組入水準を高位に維持することで、中長期的なトータルリターンの上を目指します。また、為替変動リスクを回避する目的から為替のフルヘッジについても継続します。

円ヘッジなしコース

今後も、日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの組入水準を高位に維持することで、中長期的なトータルリターンの上を目指します。

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

投資環境の変化を引き続き注視しながら、現在のポートフォリオ特性を今後も原則維持する方針です。また適宜利回りの高い債券への入替えを行い、トータルリターンの上をを図る方針です。

● 1万口当たりの費用明細

☼ 円ヘッジありコース

期中の1万口当たりの費用の割合は**0.923%**です。

項目	第3期 2018.6.15~2019.6.14		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	89円	0.907%	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率(年率)× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は9,824円です。
(投信会社)	(42)	(0.432)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(42)	(0.432)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(4)	(0.043)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	2	0.016	(b)その他費用= $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.011)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.004)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	91	0.923	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

 円ヘッジなしコース

期中の1万口当たりの費用の割合は**0.924%**です。

項目	第3期 2018.6.15~2019.6.14		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	102円	0.907%	(a)信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率(年率)× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は11,193円です。
(投信会社)	(48)	(0.432)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(48)	(0.432)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(5)	(0.043)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	2	0.017	(b)その他費用= $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.012)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.004)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	104	0.924	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

円ヘッジありコース

○売買及び取引の状況

(2018年6月15日～2019年6月14日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千口 —	千円 —	千口 237,135	千円 333,400

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 金額は受渡代金。

○利害関係人との取引状況等

(2018年6月15日～2019年6月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2019年6月14日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千口 931,455	千口 694,320	千円 1,022,872

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 当ファンドは、当期末において、直接投資をする株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

○投資信託財産の構成

(2019年6月14日現在)

項 目	当 期 末
	評 価 額 比 率
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千円 1,022,872 % 98.9
コール・ローン等、その他	11,559 1.1
投資信託財産総額	1,034,431 100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 日本金融ハイブリッド証券マザーファンドにおいて、当期末における外貨建資産(8,856,426千円)の投資信託財産総額(8,907,036千円)に対する比率は、99.4%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
なお、当期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=108.43円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年6月14日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,013,622,934
コール・ローン等	11,558,617
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド(詳価額)	1,022,872,467
未収入金	979,191,850
(B) 負債	986,279,853
未払金	981,470,100
未払信託報酬	4,786,730
未払利息	31
その他未払費用	22,992
(C) 純資産総額(A-B)	1,027,343,081
元本	994,511,377
次期繰越損益金	32,831,704
(D) 受益権総口数	994,511,377口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,330円

(注1) 信託財産に係る期首元本額1,306,617,503円、期中追加設定元本額43,400,050円、期中一部解約元本額355,506,176円

(注2) 期末における1口当たりの純資産総額1.0330円

○損益の状況（2018年6月15日～2019年6月14日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 12,267
受取利息	264
支払利息	△ 12,531
(B) 有価証券売買損益	67,538,769
売買益	119,166,125
売買損	△ 51,627,356
(C) 信託報酬等	△ 10,111,482
(D) 当期損益金(A+B+C)	57,415,020
(E) 前期繰越損益金	△ 25,654,142
(F) 追加信託差損益金	1,070,826
(配当等相当額)	(7,840,373)
(売買損益相当額)	(△ 6,769,547)
(G) 計(D+E+F)	32,831,704
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	32,831,704
追加信託差損益金	1,070,826
(配当等相当額)	(7,919,015)
(売買損益相当額)	(△ 6,848,189)
分配準備積立金	96,009,428
繰越損益金	△ 64,248,550

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程（2018年6月15日～2019年6月14日）は以下の通りです。

項 目	2018年6月15日～ 2019年6月14日
a. 配当等収益(費用控除後)	38,879,460円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	0円
c. 信託約款に規定する収益調整金	7,919,015円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	57,129,968円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	103,928,443円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	1,045円
g. 分配金	0円

円ヘッジなしコース

○売買及び取引の状況

(2018年6月15日～2019年6月14日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千口 136,274	千円 197,350	千口 45,660	千円 64,140

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 金額は受渡代金。

○利害関係人との取引状況等

(2018年6月15日～2019年6月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2019年6月14日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千口 96,857	千口 187,471	千円 276,182

(注1) 単位未満は切捨て。

(注2) 当ファンドは、当期末において、直接投資をする株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

○投資信託財産の構成

(2019年6月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	千円 276,182	% 98.7
コール・ローン等、その他	3,677	1.3
投資信託財産総額	279,859	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 日本金融ハイブリッド証券マザーファンドにおいて、当期末における外貨建資産(8,856,426千円)の投資信託財産総額(8,907,036千円)に対する比率は、99.4%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。
なお、当期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=108.43円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2019年6月14日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	279,859,496
コール・ローン等	3,676,839
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド(評価額)	276,182,657
(B) 負債	824,991
未払信託報酬	821,069
未払利息	9
その他未払費用	3,913
(C) 純資産総額(A-B)	279,034,505
元本	239,792,940
次期繰越損益金	39,241,565
(D) 受益権総口数	239,792,940口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,636円

(注1) 信託財産に係る期首元本額122,820,303円、期中追加設定元本額178,137,422円、期中一部解約元本額61,164,785円

(注2) 期末における1口当たりの純資産総額1.1636円

○損益の状況（2018年6月15日～2019年6月14日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1,455
受取利息	21
支払利息	△ 1,476
(B) 有価証券売買損益	9,867,644
売買益	11,196,532
売買損	△ 1,328,888
(C) 信託報酬等	△ 1,392,306
(D) 当期損益金(A+B+C)	8,473,883
(E) 前期繰越損益金	882,408
(F) 追加信託差損益金	29,885,274
(配当等相当額)	(15,252,857)
(売買損益相当額)	(14,632,417)
(G) 計(D+E+F)	39,241,565
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	39,241,565
追加信託差損益金	29,885,274
(配当等相当額)	(15,670,406)
(売買損益相当額)	(14,214,868)
分配準備積立金	11,136,169
繰越損益金	△ 1,779,878

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程（2018年6月15日～2019年6月14日）は以下の通りです。

項 目	2018年6月15日～ 2019年6月14日
a. 配当等収益(費用控除後)	6,203,248円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	0円
c. 信託約款に規定する収益調整金	28,105,396円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	4,932,921円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	39,241,565円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	1,636円
g. 分配金	0円

日本金融ハイブリッド証券マザーファンド

運用報告書

第6期（決算日 2018年12月14日）

<計算期間 2017年12月15日～2018年12月14日>

日本金融ハイブリッド証券マザーファンドの第6期の運用状況をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的とします。
主要投資対象	日本の金融機関グループ（銀行本体、保険会社およびそれぞれの子会社、関連会社等を含みます。）が発行した外貨建てのハイブリッド証券（期限付劣後債、永久劣後債、優先出資証券等）
主な組入制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		期 騰 落	中 率			
	円		%		%	百万円
2期(2014年12月15日)	12,963		20.2		96.9	2,887
3期(2015年12月14日)	13,773		6.2		94.9	4,624
4期(2016年12月14日)	13,428	△	2.5		97.7	12,039
5期(2017年12月14日)	14,139		5.3		98.2	13,559
6期(2018年12月14日)	14,032	△	0.8		97.7	9,220

(注1) 基準価額は1万口当たり（以下同じ）。

(注2) 当ファンドは、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年	月	日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率
				騰 落	率		
	(期 首)		円		%		%
	2017年12月14日		14,139		—		98.2
	12月末		14,176		0.3		97.4
	2018年1月末		13,657		△3.4		97.3
	2月末		13,350		△5.6		97.8
	3月末		13,146		△7.0		98.1
	4月末		13,512		△4.4		98.9
	5月末		13,405		△5.2		97.6
	6月末		13,620		△3.7		97.9
	7月末		13,713		△3.0		96.4
	8月末		13,827		△2.2		97.3
	9月末		14,118		△0.1		96.3
	10月末		13,950		△1.3		98.4
	11月末		14,048		△0.6		97.6
	(期 末)						
	2018年12月14日		14,032		△0.8		97.7

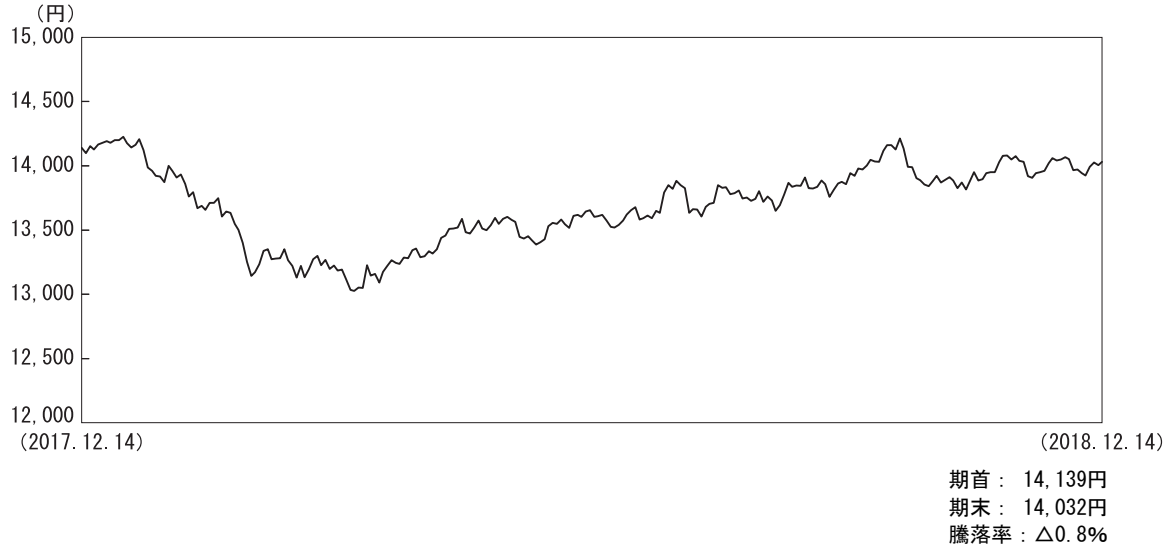
(注1) 騰落率は期首比。

(注2) 当ファンドは、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○運用経過

(2017年12月15日～2018年12月14日)

■基準価額の推移



■基準価額の主な変動要因

保有する日本金融ハイブリッド証券は、基準となる米国債利回りが大きく上昇し、また対国債スプレッドも拡大したことから利回りは上昇（価格は下落）しました。一方で同証券の高いクーポン収入と、為替の円安ドル高推移から、基準価格の下落は小幅にとどまりました。

■投資環境

○米国債券市場

米国債券利回りは上昇（価格は下落）しました。

2017年末の米国税制改革の実現を受けて、減税効果による景気拡大期待と利上げ観測を背景に、2018年初頭まで利回りは大幅に上昇し、春ごろ原油価格上昇を背景に期待インフレが高まると、利回りは一段と上昇しました。その後は、米中通商問題やイタリア財政の不透明感の高まりを背景に金利は低下しましたが、9月に原油価格が再び上昇し期待インフレが高まると、米国債券利回りも大きく上昇しました。10月以降は世界的株価下落と原油価格急落、F R B（米連邦準備理事会）当局者の発言を受けた早期利上げ終了観測等から利回りは低下しましたが、当期末の利回りは期初の水準を上回りました。

○欧州債券市場

ドイツ債券利回りはほぼ横ばいとなりました。

2017年末から2018年初頭にかけては、米国債利回りの大幅上昇を受けてドイツ債券利回りも上昇しました。その後5月末にイタリアの財政問題への警戒感から利回りは大きく低下しました。9月に入り、米国債につられドイツ債券利回りも上昇しましたが、10月以降は市場のリスク回避姿勢の高まりから再び利回りは低下し、期末の利回りは、期首からほぼ横ばいの水準となりました。

○英国債券市場

英国債券利回りはほぼ横ばいとなりました。

2017年末から2018年初頭にかけては、欧米債につられ利回りは上昇しました。5月末にはイタリアの財政問題への警戒感から利回りは低下し、9月ごろ欧米の債券利回りが上昇すると、英国債利回りも上昇しました。10月以降は、欧米金利低下や、E U（欧州連合）離脱交渉の先行き不透明感の高まり等を背景に利回りは低下し、期末の利回りは、期首からほぼ横ばいの水準となりました。

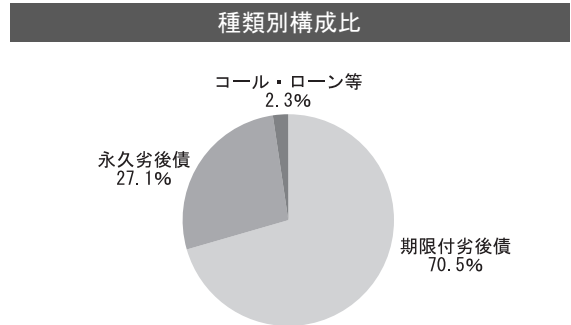
○日本金融ハイブリッド証券市場

日本金融ハイブリッド証券市場は、基準となる米国債利回りが大幅上昇し、対国債スプレッドも拡大したことから、利回りは上昇（価格は下落）しました。各発行体のファンダメンタルズの健全な状況に特段の変化はなく、スプレッドの拡大は需給要因が主因と考えます。

■当該投資信託のポートフォリオ

決算日時点のポートフォリオは8銘柄で構成されています。投資している証券はすべて外貨建てとなっています。

第6期末時点のポートフォリオ構成は円グラフの通りです



(注1) 比率は、第6期末における純資産に対する割合。

(注2) 端数処理の関係上、構成比合計が100%とならない場合があります。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、日本の金融機関グループが発行した外貨建て（米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て等）のハイブリッド証券を主要投資対象とするファンドです。そのため、当ファンドのコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

■今後の運用方針

投資環境の変化を引き続き注視しながら、現在のポートフォリオ特性を今後も原則維持する方針です。また、適宜利回りの高い債券への入替を行い、トータルリターンの向上を図る方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2017年12月15日～2018年12月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円 2	% 0.011	(a) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保 管 費 用)	(2)	(0.011)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合 計	2	0.011	
期中の平均基準価額は13,710円です。			

(注1) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注2) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2017年12月15日～2018年12月14日)

公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	社債券 (投資法人債券を含む)	千アメリカ・ドル 2,571	千アメリカ・ドル 34,845

(注1) 金額は受渡代金 (経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 社債券には新株予約権付社債 (転換社債) は含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2017年12月15日～2018年12月14日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2018年12月14日現在)

外国公社債

(A) 外国(外貨建)公社債 種類別開示

区分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	81,400	79,264	9,005,228	97.7	—	86.9	10.7	—
合 計	81,400	79,264	9,005,228	97.7	—	86.9	10.7	—

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 当マザーファンドは、当期末において、株式及び新株予約権証券の組入れはありません。

(B) 外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	当 期 末						
	利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日		
			外貨建金額	邦貨換算金額			
アメリカ	%	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円			
普通社債券 (含む投資法人債)	DAI-ICHI 4.0 260724	4.0	24,000	22,018	2,501,474	2026/7/24	
	MEIJIASUDA 5.2 251020	5.2	22,200	22,150	2,516,492	2025/10/20	
	MIZUHO FG 4.6 240327	4.6	3,100	3,091	351,264	2024/3/27	
	MS INSURANCE 7.0 220315	7.0	2,200	2,337	265,555	2022/3/15	
	NIPPON LIFE 4.7 260120	4.7	20,100	19,508	2,216,378	2026/1/20	
	NIPPON LIFE 5.1 241016	5.1	1,800	1,793	203,810	2024/10/16	
	SMBC 4.436 240402	4.436	2,000	1,987	225,770	2024/4/2	
	SUMITOMO LIFE 6.5 230920	6.5	6,000	6,376	724,481	2023/9/20	
合 計					9,005,228		

(注1) 邦貨換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 繰上償還条項が付与されている銘柄については、繰上償還予定日を償還日に記載しています。

○投資信託財産の構成

(2018年12月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 9,005,228	% 97.7
コール・ローン等、その他	215,609	2.3
投資信託財産総額	9,220,837	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建資産(9,133,918千円)の投資信託財産総額(9,220,837千円)に対する比率は、99.1%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

なお、当期末における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=113.61円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年12月14日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	9,220,837,354
コール・ローン等	88,098,454
公社債(評価額)	9,005,228,824
未收利息	127,510,076
(B) 負債	2,327
未払利息	238
その他未払費用	2,089
(C) 純資産総額(A-B)	9,220,835,027
元本	6,571,157,829
次期繰越損益金	2,649,677,198
(D) 受益権総口数	6,571,157,829口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,032円

(注1) 信託財産に係る期首元本額9,590,230,827円、期中追加設定元本額316,734,751円、期中一部解約元本額3,335,807,749円

(注2) 期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託ごとの元本の内訳

日本金融機関ハイブリッド証券ファンド	円ヘッジあり	1,338,375,173円
日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)	円ヘッジありコース	3,970,156,906円
日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)	円ヘッジなしコース	417,269,491円
日本金融ハイブリッド証券オープン(年1回決算型)	円ヘッジありコース	751,494,824円
日本金融ハイブリッド証券オープン(年1回決算型)	円ヘッジなしコース	93,861,435円

(注3) 期末における1口当たりの純資産総額 1.4032円

○損益の状況 (2017年12月15日～2018年12月14日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	542,708,249
受取利息	542,762,080
支払利息	△ 53,831
(B) 有価証券売買損益	△ 755,832,705
売買益	75,910,904
売買損	△ 831,743,609
(C) 保管費用等	△ 1,257,152
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 214,381,608
(E) 前期繰越損益金	3,969,275,808
(F) 追加信託差損益金	107,005,249
(G) 解約差損益金	△1,212,222,251
(H) 計(D+E+F+G)	2,649,677,198
次期繰越損益金(H)	2,649,677,198

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 解約差損益金とは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

・公告の方法を「日本経済新聞に掲載」から「電子公告」へ変更するため、投資信託約款に所要の変更を行いました(2018年1月15日)。